

工学院大学

～ 実験のプレ学習等に活用可能なコンテンツを整備 ～

工学院大学では、理工系科目の基礎知識補完や実験の事前説明用に教科書などをベースにした自学自習用教材を多数作成している。教材はテキストと音声、アニメーション、シミュレーションなどをWebページから閲覧可能としており、視聴覚を通じた理解の促進を図っている。

1 . e - ラーニングの実施目的 :

- ・ 授業での教材提示を充実するため
- ・ 授業の予習復習を充実するため
- ・ 小テストなどによる学習履歴の把握や学習進度に応じた課題提示など自学自習支援のため

2 . e - ラーニングの実施規模

実施の規模 全学的に実施
 e - ラーニングを活用する科目数 . . . 6 科目
 対象となる学生数 約 1,000 人

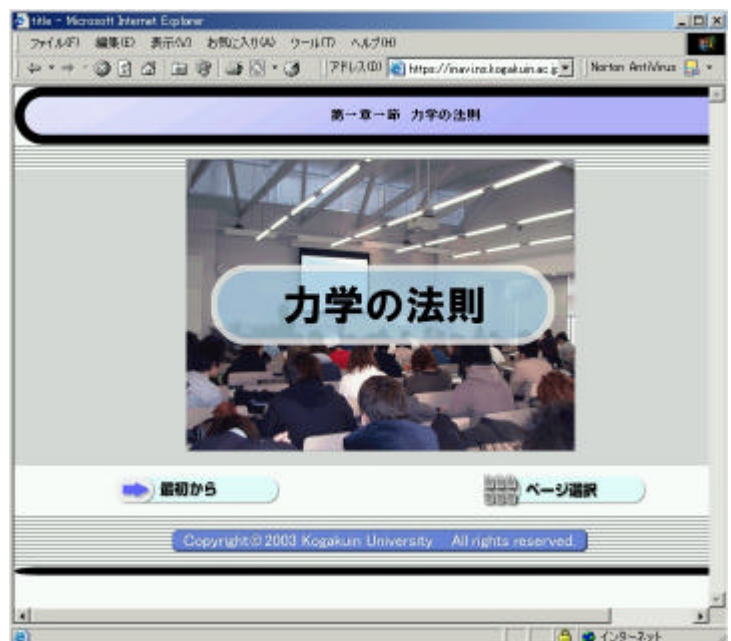
3 . 授業での位置付け

現時点では、音声 + 静止画、画像や写真を多用したクイズ形式、HTMLベースの説明文章 + 動画などのコンテンツを各科目での必要性に即して作成し、授業の予習復習用として講義の補完、実験の予備説明などに活用している。授業における位置付けは学内の教育委員会にて検討中で、単位化や成績評価への利用など今後の検討課題となっている。

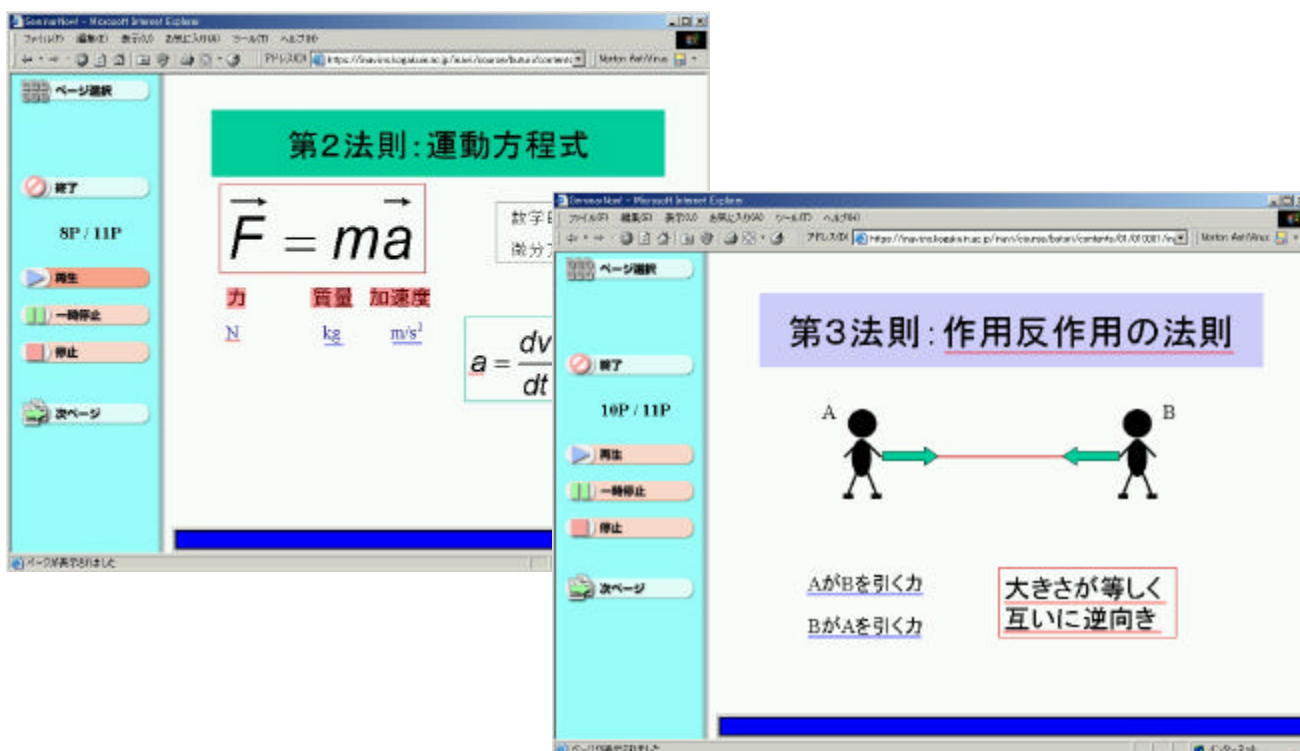
4 . 代表的な授業科目での活用内容

- (1) 科目名 『物理学』
 (2) 受講学生数 220人 (3クラス)
 (3) 具体的な活用状況

予習復習教材として位置付けている。学生には利用方法を説明した用紙を配布し、授業のスケジュールに合わせて、どの時期に、どのコンテンツを閲覧すべきかを週単位で指示する。教員は、学生個々の学習状況 (教材への接続時間、達成率) を e - ラーニング管理ソフトでモニターすることができるため、達成率の低い学生に対しては、授業時間中に個別的に努力を促すことができる。順調に学習を進めている場合は、平常点に加算する。



また、学期末にて e - ラーニングに関するアンケートを実施し、授業評価や教育効果を調べている。



5 . e - ラーニングの活用により期待している効果

学習意欲のある学生は、e - ラーニングにも積極的に参加しプラスの効果があるが、意欲のない学生の場合には、教室の授業と同様効果は低い。これは、e - ラーニング以前の問題であり、e - ラーニングは、大学において如何に学生の学ぶ意欲を引き出すかと言う根本的な問題の解決には必ずしもならない。

6 . 大学の支援内容

- (1) コンテンツの作成を学部委託した場合、学内で容易に更新できないことが多い。簡易な編集ツールが必要である。
- (2) 既存の e - ラーニング管理ソフトは、一般的な機能を持ってはいるが、個々の授業にとっては必ずしも「痒いところに手が届く」ようにはなっていない。カスタマイズ機能や、より柔軟性を持ったシステムが期待される。

7 . 今後の方針、拡大・改善の計画

以下のような課題がある。

- (1) 大学教育における e - ラーニングの位置付けを明確にすること。例えば、単位科目での取り扱い等。
- (2) コンテンツの作成支援、管理、保守体制の整備。
- (3) コンテンツの充実と一般化、個々の学生の特性や学習計画に合わせて利用できる柔軟な構造の検討。

《問い合わせ先》

工学院大学 情報科学研究教育センター 事務課長 山本 和隆 氏
TEL:03-3340-0134